

的扶助制度の実施 (3)現存制度の改正と拡充, をその提案内容としている。これに要する費用は総額 132 億ドルで, そのうち 118 億ドルは児童手当にかかる費用であり, これによって 78 億ドル分の未成年者の貧困ギャップが解消できると説明している。いずれにしても, 先にも述べたように, プログラムの選択は, 経済効果だけでなく, 他の諸目標との関連でなされるべきものである。

### 社会福祉の展望に向かって

以上, この論では, 児童手当制度の弁護というより, 所得確保のための議論は広汎に, いろいろな方向でなされなければならないことを述べてきた。

1. プログラム選択の分析にあたっては, 経済効果以外の目標や方法を考えるべきである。社会福祉推進の観点からいって, 諸提案の分析の中心は, 政治的・経済的な実行可能性を条件にして, いかに効果的に所得を再分配し, 社会的に統合するかの評価におくべきである。

2. 収入不足分の解決の見通しは, 伝統的

な所得保障の概念だけにとどめてはならない。いかなる形の所得保障計画も, 単純に言えば所得の移動である。その移動は, 多元的方法で行なわれることが可能であり, また, 事実そうである。たとえば, 1964年の所得税カットは 200 億ドルの所得の移動を実現した。これは, 課税, 債権, その他の公的な国庫会計の政策決定のただ一つの例にすぎない。この操作によっても, おそらく, 現在流行している所得保障のプログラムより, 貧困者やそれに近い人々の生活を利すると思われる。

3. 最後に, 現在, われわれの論じている

所得保障のプログラムだけが, 考えるる全てであると認めるべきではない。どのプログラムをとってみても, 多くの重要な欠点がある。それゆえ, 事情に精通した大胆な想像力を新しい提案に応用することが必要で, それによって, より適切に社会福祉の展望を明らかにし, 社会的・人間的諸目標の実現を可能とすることができるのである。

Scott Briar, Why Children's Allowances?  
*Social Work*, Vol. 14, No. 1, January 1969.

(根本嘉昭 全社協)

## 慢性腎臓病治療への費用・有効性 分析の応用

(アメリカ)



この論文は, 慢性腎臓病の治療のうえで, 施設での腎透析(患者の血液から人工腎臓によ

て不純物をとり除くこと) と, 自宅での腎透析ならびに腎移植のいずれが最もいい方法であ

るか、ということにこたえようとするものである。いま合衆国で慢性腎臓病で死ぬ人は約6,000人いると予測される。その多くは15歳～54歳であるが、うち治療の有効なるものは1,000～1,100人である。さらにそのうち、腎透析が有効とおもわれるもの850人、腎移植ができるとおもわれる人は150～200人である。移植費用は1人あたり1万3,000ドル、病院での腎透析の費用は年間1万4,000ドルである。

費用・便益分析 Cost-Benefit Analysis は、公共部門での計画などで用いられ、水資源にかんするもののように、すべての費用と利益を計算する方法をとるのに対し、費用・有効性分析 Cost-Effectiveness Analysis は、それよりもっと狭く特殊なやりかたである。最終結果だけがこまかくとりあげられる。慢性腎臓病のばあい、腎透析は一生がい続き、移植は一回限りであるが、もし失敗すれば他の手術か腎透析かをしなければならないものである。

最終結果は生存年数で示すこととしたが、腎透析患者と移植患者との間には生活上の質

的な差異がある。後者は活動範囲が大である。その質的差異は4:1であるとの論文では考えた。費用は、生存中の支出額（現在評価）とした。

慢性腎透析プログラムの対象となる人については、第1年目死亡率15%、次年以降年間10%の死亡率があるものと仮定した。これによれば、腎透析患者の予想される平均生存年数は約9年である。移植についてはいくつかの代替的結果がある。移植成功、第2次移植、死亡もしくは慢性腎透析患者への転化などがあるであろう。これについても確実な予測はできないので、かりに第1次移植後の生存率は50%、第二次移植をうけるものは10%、死亡率20%、透析患者になる割合は20%という仮定をもうけた。これによると移植患者の生存期待年数は17.2年、第2次移植患者のそれは13.3年である。透析患者と移植患者との間の生活上の質的差異を考慮して訂正すれば、その年限は20.5年である。1人あたり費用額（現在評価金額）ならびに1年あたり費用は表1に示したとおりである。施設での腎透析患者の1年あたり費用は1万1,600ドル、

表1. 治療処置方法別支出額（現在価格）と生存年数

治療等方法別	支出額	生存年数	1年あたり費用
腎透析	ドル	年	ドル
施設での腎透析	104,000	9	11,600
自宅での腎透析	38,000	9	4,200
平均	71,000	9	7,900
移植			
未訂正	44,500	17	2,600
訂正	44,500	20.5	2,200

移植患者のそれ（未訂正）は2,600ドルである。

以上の所見から、慢性腎臓病患者の生存期待年数を最も有効に、しかも経済的に増す方法は移植である、と結論できよう。今後、多くの腎臓が求められるに伴って、検屍と組織提供にかんする法律の変更などが必要となろう。自宅における腎透析をふやすこともすすめられてよいであろうが、その発展のためには、住宅条件が一つの限界である。

H. E. Klarman et al, Cost Effectiveness Analysis Applied to the Treatment of Chronic Renal Disease, *Medical Care*, Vol. VI. No.1, January-February 1968

（前田 信雄 国立公衆衛生院）